

三宝通信

ウラボン 『盂蘭盆』(お盆)

No.5

1983.7.1

お釈迦^{シャカ}さま(釈尊^{シャクソン}、仏陀^{ブツダ})の弟子モッガラナ^{モクレン}(目連)が、亡母が餓鬼道^{ガキドウ}に墮ちて苦しんでいるのを知り母を救う為、三ヶ月の安居^{アンゴ}の終る7月15日に多くの僧侶に飲食の供養をしたのがお盆の始まりであると「盂蘭盆経^{ウラボンキョウ}」に説かれています。

お盆の語源は、梵語の〔逆さ吊り〕avalambana→ullambana(ウランバナ)^{ウラボン}→盂蘭盆→お盆と転訛したものです。

日本では斉明天皇3年(657年)以来行われている行事で、鎌倉時代からは施餓鬼会^{セガキエ}を、室町時代になって灯ろう流しや大文字の送り火や精霊祭を始めるようになり、江戸時代には7月13日から15日までをお盆として盆市が立ったり、盆踊^{ショウリョウダナ}をしたり、精霊棚^{タナギョウ}を設けて祖先の霊を祭り僧侶を招いて棚経^{タナギョウ}をあげてもらいました。現在では地方によって7月盆、8月盆(月遅れ盆)、旧暦盆とが行われます。